

帰国報告書

国際バイオビジネス学科 4年 竹中奏絵

・はじめに

2017年4月から2018年2月の約10か月のブラジル長期留学を終えました。長かったようで、あっという間だったこの時間は本当に、本当に私にとってかけがえのない時間でした。帰国してからもこの日本の生活の中でブラジルの話題やニュースなどブラジルの面影を探している自分がいます。このブラジル長期留学を当初の目的や留学中の活動、留学で学んだことなど振り返っていきたいと思います。

・留学の目的

私は渡航前この留学の目的として、①ブラジルの財務管理を学ぶ、②住んだからこそわかるブラジル文化を知ることの二つを掲げました。

まず私は国際バイオビジネス学科に所属しているので、ブラジルの経営管理はどのように行われているか興味があり目的の一つとしました。サンパウロ大学の財務管理の授業を受け、また短期留学の際に訪れたトメアスーで約一ヵ月聞き取り調査と実習を行い、農大OBの方にもお話を伺うなどしました。私は経営管理をしっかり行っている農家は少ないと思っていました。しかし、話を聞いたり調べていくとブラジルにも経営管理の概念はあり、大学の授業として教えていることがわかりました。また、トメアスーでの7軒日系農家の方に聞き取り調査をすると私が想像しているより経営管理に向き合い、前向きにまだこれからも改善したいと考えていることがわかりました。同時に非日系農家になるとやはり、経営管理を行っているところは少ないという話を聞きました。これはブラジルでは進学率が低いことや物価が安定しないこと、治安の問題など様々な要因があり、経営管理をする必要がない、しても意味がないという意見を持っていると聞いたからです。日本との経営管理に対する意見の違いや、問題点を学び、当初の目的を達成できたと思います。ブラジル農業の財務管理を学ぶことを目標にし、実際に調査・実習をしていく中で理解を深めることが出来ました。帰国して思うことはこれらのことを知っただけにはならないよう、今後より日本の農業とブラジルの農業で財務管理を比べ、どう改善していけばいいのか考えていきたいと思っています。



※実習地での農場の混植の様子

二つ目の目的では私はこの長期留学でブラジル滞在が3回目でした。そのため約一ヶ月の学科の現地研修や三週間の短期留学という短い期間では知る事の出来なかったブラジルの一面が見たいと考えました。約10か月の留学をしたことにより、季節の移り変わりやブラジルの祝日の過ごし方、様々な土地の生活を自分の目で見て、肌で感じる事が出来ました。

印象に残っているのは記念日の過ごし方の違いです。キリスト教の人口が多いことや日本よりも家族を大切にする風習から同じ名前のイベントでも過ごし方が全く違ったことが興味深かったです。日本と同じようにクリスマスや年末年始、恋人の日などがありましたが、特に **Natal** と呼ばれるブラジルのクリスマスが印象に残っています。サンパウロ大学の友人の家に招待してもらいクリスマスを過ごしました。伝統的なクリスマスに食べられる鳥の丸焼きやケーキ等、人数分よりはるかに多くの食べ物が並び夕食が始まり、日付が変わる深夜12時前になると家の前の道に全員ででて、**25**日のクリスマスを迎えるのを待ちました。日付が変わると街の広場で花火が上がったり、爆竹でお祝いしたり、そして「**Feliz Natal**」と言いながら友人宅の家族や同じように外に出ていた近所の方々と抱擁しあいました。日本の恋人のためのイベントになっているクリスマスとは違い、家に家族で集まって過ごす、キリスト教徒が大半を占めるブラジルにとって本当に大切な日ということを感じました。



※クリスマスで一般的に食べられている鳥の丸焼き

また普段の生活の中で日本人だったら当たり前のことをして驚いたことがあります。それはブラジル人の女の子 5 人とシェアハウスで暮らしていた時に自分のものをリビングなどの共同スペースで広げた後、片づけをしていたら「奏絵はきれい好きね。」と声をかけられたことです。私は最初どういう意味で言われているかわからず、ルームメイトに聞くとこの家では家政婦を雇っていて食事や掃除をしてもらえるのに自分で整理整頓をするのはきれい好きだからだと思ったということでした。確かに一緒に住んでいてブラジル人は散らかしたらそのまま片づけない性格だと思うことが時々ありました。でもそれは家政婦を雇っているからわざわざ自分ですることではないという認識の違いでした。日本人は自分で散らかしたら自分で片づけるものだとして育ってきているし、反対にブラジル人は家政婦を雇っているのに自分で片づけたら家政婦の仕事を奪っていると思う、という文化の違いだと知りました。このようなブラジルの文化を知っても私は散らかしたままにはできなかったので育つ環境による影響の大きさを経験しました。



※シェアハウス ‘cupido’ の様子

・留学中の活動について

留学中は上記の目的を達成するために現地の学生が入るシェアハウスで暮らしサンパウロ大学での授業に加え、インターンシップとしてトメアスーでの研修、**summer school** という短期留学生が参加するプログラムに参加しました。サンパウロ大学というレベルの高い大学に在学し、全てポルトガル語の授業を受けていたので内容を細部まで理解することが難しかったことや、現地の学生と暮らしていく大変さは多くありました。しかし、ほぼすべてポルトガル語に囲まれた生活だったため言語の上達が早かったように思います。授業の中で一番大変だったことはグループに分かれ発表したことです。日本語だったら簡単に出来ることが異なる言語になっただけで準備にも時間がかかるし、発表では話し方や間合いなど違うことだらけで発見が多く印象に残っています。

また長期休暇や祝日などを利用しブラジル国内の様々な都市に行きました。やはり国土が広いこともあり、訪れた都市ごとで町や人々の雰囲気が変わったり、移民の歴史を感じるようなヨーロッパ調の街並みであったり、食べ物など同じ国の中なのにどこか違うように思うことが多く、本当に様々な人や文化が混ざった多民族国家だということを実感しました。

・10か月の留学で学んだこと

この留学を通してブラジルの文化や生活を知っていく中で一番感じたことは視野を広く持つことの大切さです。これはブラジル人だけでなく、日系人の方やブラジルで働く日本人、留学生など様々な境遇の方々とお会いし話したからこそ学べたことです。移住してブラジ

ルで生活している農大会の方々や留学生の会という日系企業に勤めている社会人と日本人留学生が集まる会に参加したことや、ブラジルも日本も知っている方の意見を聞いたことで考えが深まりました。ブラジルと日本という国としての文化・生活の違いだけでなく、同じブラジルという国に暮らしてもそれぞれの立場によっての感じ方、考え方の違いにふれとことが印象に強く残っています。ブラジルという今まで育った日本ではない国に行き、生活したことでたくさんの違和感と出会いました。文化や生活、考え方など様々なものです。長期留学では最初に感じた生活の違いなどは慣れていきます。そしてその状態で日本に帰国するので今まで住んでいた日本が違って見えるようになりました。ブラジルを知ったことで、当たり前だった日本の文化を変だと感じ、反対に良い文化だと思うようになりました。多様な視野を持つということは今後の私の人生の選択に生きていくものだと思うし、もっといろいろな世界をみたいと思うようになりました。

・最後に

日本で一年間生活するよりはるかに多くの方々とお会いし、支えられていると感じました。現地でサポートしてくださった農大会の皆様をはじめ、国際協力センターの方々、サンパウロ大学の先生方、シェアハウスのルームメイト、現地の学生、支えてくださった家族など本当にお世話になりました。長期留学は終わってしまいましたが学んだことや思い出は私の核の一部として、これからの私の人生に大きく影響を与えるものだと思います。本当にありがとうございました。